

神奈川県で発見されたミノブマイマイについて

東 良 雄

Notes on *Satsuma moellendorffiana thaanumi* (PILSBRY, 1924)

Found in Kanagawa Prefecture, Japan

Yoshio AZUMA

筆者は、神奈川の動植物分布調査中に、足柄上郡山北町箒沢においてミノブマイマイ *Satsuma moellendorffiana thaanumi* (PILSBRY, 1924) の生成貝を4個体発見したのでここに報告する。

ミノブマイマイ (図1, 図2) は、Daniel B. Langford によって山梨県身延山 (模式産地) で採集され Henry A. Pilsbry によって新種として記載されたナンバンマイマイ科 (Camaenidae) ニッポンマイマイ属 (*Satsuma*) のカタツムリで、その後久しく再発見されることのなかった貝である。その後の研究で現在は、メルレンドルフマイマイ *S. moellendorffiana* (PILSBRY & HIRASE, 1903) (模式産地：天城山) の亜種とされている (波部他, 1965)。本亜種はメルレンドルフマイマイと比較すると、貝殻の形状がより大型で扁平であり (図1), 生殖器の構造のうち鞭状器 (fl) の形態が異なる (図3) という点で区別されている (湊, 1976; 片沢・反田, 1981; 東, 1982)。

発見した個体の測定値および生殖器の構造は (表1, 図3A) に示してある。貝殻の形状は前述のとおり扁平な円錐形、体層周縁は円く、腹面はいくらか平らである。殻色は肉桂色。周縁に細くて濃い肉桂色の色帯がある。次に鞭状器 (fl) における両種の区別点であるが、これはメルレンドルフマイマイが二又状に分岐するのに対し本亜種では、分岐しないで少し螺旋状に曲がる点 (図3) である (東, 1982)。発見地は標高500 m の杉林中であり、石の下に越冬中であつたらしく透明なエビフラグムを殻口に張っていた。なお、付近においてはチャイロヒダリマキマイマイ *Euhadra quaesita montium* (MARTENS, 1879), カントウベッコウ *Bekkochlamys septentrionalis* (JACOBI, 1898) 等がみられたが個体数・種類数ともに少なかった。発見後4

日目に交尾が見られ、7月には産卵も見られたが孵化はしなかった。

次に現在までに確認されている分布地 (黒田, 1963; 船窪, 1966; 片沢・反田, 1980) と今回の発見地、さらにメルレンドルフマイマイの分布地について示したものが図4である。ここで点線内は、日本の植物区系からみたフォッサ・マグナ地域 (高橋, 1971) の範囲を示している。関口・小菅 (1964) によると今回の発見地付近にはメルレンドルフマイマイが分布しているということである (図4のA・B)。このことは同一種内の別亜種が、同一地域に生息するという興味ある現象を示しているが筆者は実物を見ていないので詳細は、今後明らかにしたいと考える。図4から両種とも分布は現在までのところフォッサ・マグナ地域内に限られているようである。また今回の発見地は分布の東限に位置している。本亜種はメルレンドルフマイマイに比べると、この地域内では広く分布しているようである。図5には現在までに発見されたミノブマイマイの貝殻の変異を示してみた (PILSBRY, 1924; 船窪, 1964; 波部他, 1965; 川名・反田, 1973; 片沢・反田, 1980; 片沢・反田, 1981)。この図から今回発見した個体と他の地域で見つかったものとの間には貝殻上の

表1 ミノブマイマイの測定値

個体	殻高(mm)	殻径(mm)	螺層(層)	採集年月日
No.1	20.9	30.0	6¾	26. IV. 1981
No.2	18.1	28.3	6½	26. IV. 1981
No.3	17.8	26.2	6¼	26. IV. 1981
No.4	17.5	26.5	6¼	26. IV. 1981
模式標本	19.4	31.4	6½	1924頃

著しい相違はないと考える。以上の点から、このカタツムリはフォッサ・マグナ地域となんらかの関連を想起させ非常に興味深い、この点に関しては今後の研究にまかしたいと考える。

最後に本報告をまとめるにあたりいろいろとお世話になった神奈川県立博物館の大場達之先生、中村一恵先生をはじめ博物館の方々に感謝の意を表します。

文 献

- 東 正雄 1982 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社, 大阪.
- 船窪 久 1964 採集余談. ちりばたん, 3(1): 12.
- 船窪 久 1966 ミノブマイマイ採集記. ちりばたん, 4(1): 19-22.
- 波部忠重・船窪 久・大熊量平 1965 ミノブマイマイの再発見 *Venus* 24(2): 158. pl. 12, figs. 7-9, 11-13.
- 片沢達夫・反田栄一 1980 ミノブマイマイの新産地と分布および生殖器について. ちりばたん, 11(1): 9-11.
- 片沢達夫・反田栄一 1981 メルレンドルフマイマイとミノブマイマイの生殖器の比較. ちりばたん, 12(1): 4-8.
- 川名美佐男・反田栄一 1973 ミノブマイマイの生貝再採集. ちりばたん, 7(8): 表紙2面.
- 黒田徳米 1963 日本非海産貝類目録. 日本貝類学会編, 東京.
- 湊 宏 1976 日本産陸棲貝類の生殖器の研究(VI) *Venus* 35(1): 27-31.
- PILSBRY H. A. 1924 On some Japanese land and fresh water mollusks. *Proc. Acad. Nat. Sci. Phila.*, 76: 11-12. fig. 1.
- 関口秀一・小菅貞男 1964 丹沢山塊の陸産貝類. 丹沢大山学術調査報告書 pp. 397-402. 神奈川県
- 高橋秀男 1971 フォッサ・マグナ要素の植物. 神奈川県立博物館調査研究報告 自然科学 第2号.

(神奈川県立相模原高校)

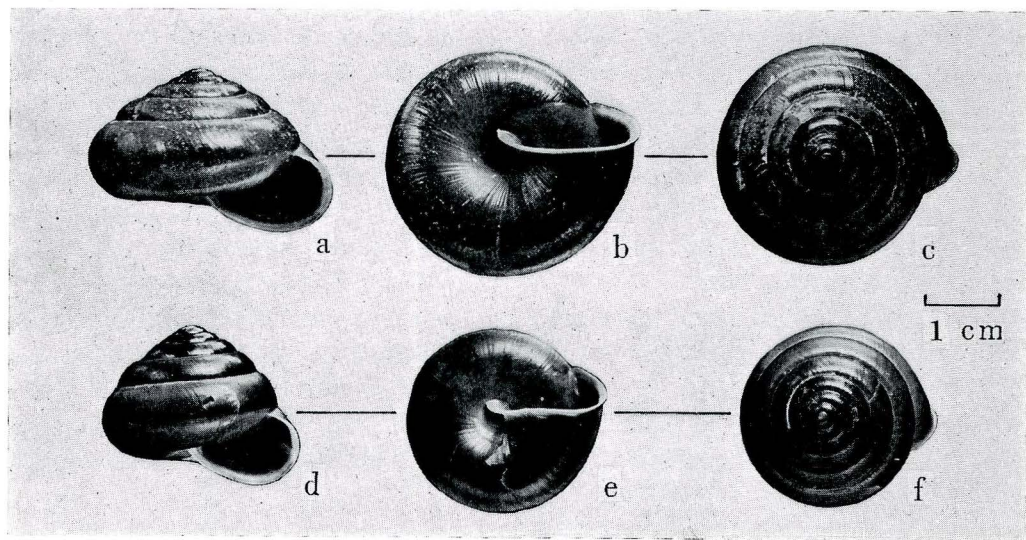


図1 *Satsuma moellendorffiana thaanumi* (PILSBRY, 1924) ミノブマイマイ (a-c, 20.9×30.0(mm); 6¾層) と *Satsuma moellendorffiana* (PILSBRY & HIRASE, 1903) メルレンドルフマイマイ (d-f, 19.5×23.6(mm); 7層) (静岡県天城湯ヶ島町湯ヶ島産).



図2 ミノブマイマイ 1981.4.26 撮影

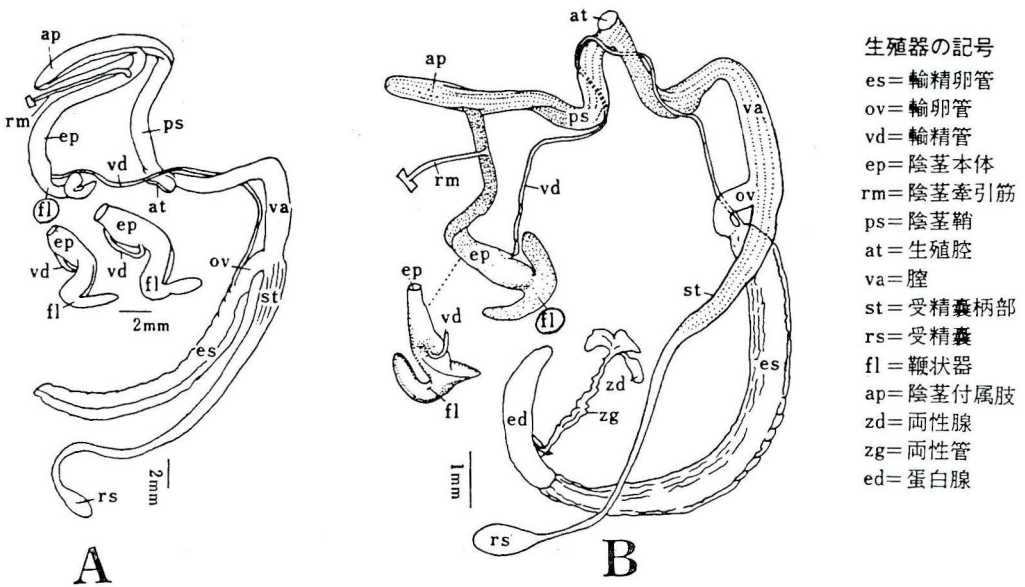


図3 ミノブマイマイ (A) とメルレンドルフマイマイ (B) の生殖器 (東, 1982)

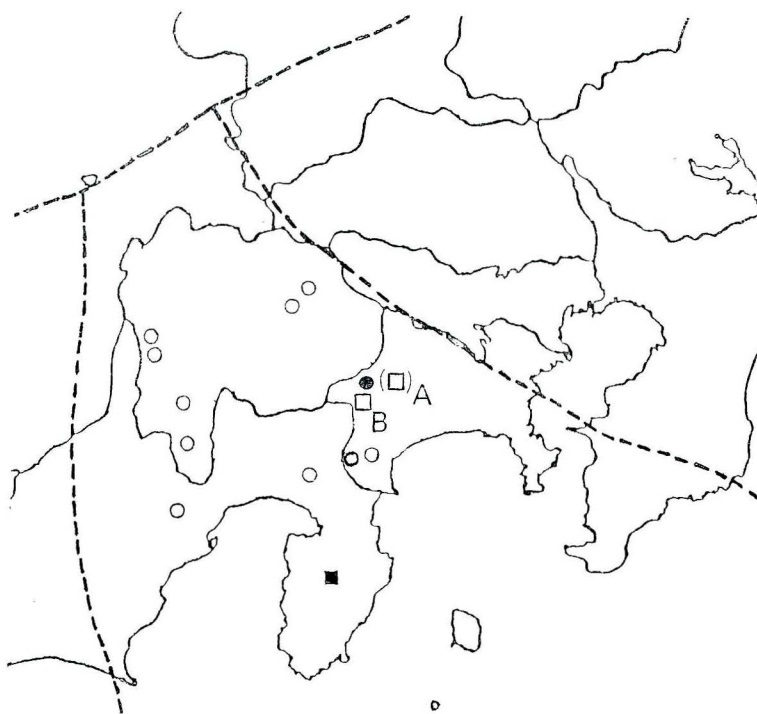


図4 ミノブマイマイとメルレンドルフマイマイの分布

●箒沢産ミノブマイマイ, ○ミノブマイマイ, ■メルレンドルフマイマイ(模式産地), □メルレンドルフマイマイ (関口・小菅, 1964による). Aは箒沢, Bは田ノ入の位置を示す。

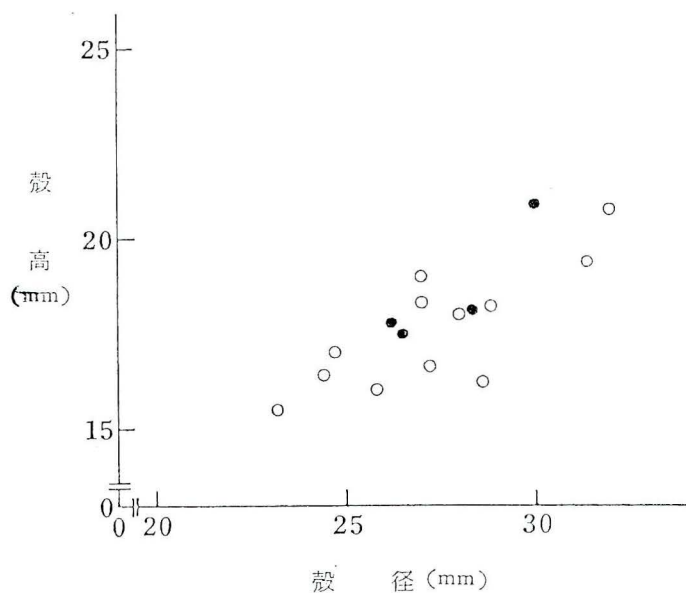


図5 各産地のミノブマイマイの貝殻の変異
黒丸は箒沢産, 白丸は他地域産を示す。